

第1回 量的研究と質的研究，顕在変数と潜在変数

■心理・教育の領域は数字に囲まれている

教育で多い：入学試験，学力テスト，PISA，TIMSS，NAEP，学業成績，身体能力，
授業時間数，履修単位，教育費，給食費，教育予算など

心理で多い：知能検査，発達検査，性格（パーソナリティ）検査，質問紙調査など
→心理・教育は数字の山に囲まれている．文系にあるからそうは思われないが

■量的研究と質的研究

量的研究：研究対象に存在する普遍的な法則関係を取り出すために，現象を「数」という凝縮されたあり方に変換し，定量的な分析により，その法則を捉えようとする研究．

→自然科学的発想．仮説検証型になることが多い．統計分析．

メリット：個々の事例の特殊事情にとらわれなくて，全体的傾向を捉えられる．

デメリット：現象を数値に置き換える必要があり，微細な現象まで網羅して捉えることが難しい．

質的研究：現象のありようを記述するために，数値的表現ではなく，言語的表現を使用し
て，データの収集，分析，結果の提示（記述）を行う研究．

→社会科学発想．仮説生成型になることが多い．事例研究．

メリット：個々の事例の生のありようをできるだけ損なわずに記述することができる．

デメリット：個々の事例の特殊事情にとらわれたり，現象の本質ではなく見かけだけを捉えた記述になってしまう可能性がある．

仮説の生成には向いているが，検証に使うのは難しい．

例）重いものほど速く落下するということが，アリストテレス以降，ガリレオが物体の落下運動の法則を導くまで信じられてきた．確かに，大気中で現象を見てい
れば，紙より石のほうが速く落ちることなどが観察されるが，これは，空気抵抗を見落として
いるものであり，（ニュートン力学的な）落下運動の本質ではなく，みかけの現象である．
天動説と地動説

→ 仮説生成（出しっぱなし）に留まらず，検証することが学問としては大事．

→ 仮説検証研究に向いている量的研究では，統計分析が必須

統計分析：数値に変換された現象から適切に情報を読み取る技術

■顕在変数と潜在変数

変数：観測対象により特性が異なり得る，ある特定の属性を表すもの．

概念	物理的 (physical)	構成的 (construct)
具体例	長さ，重さ，力の強さ，etc 物差しで測ることができる	パーソナリティ，能力，学力，認知度，etc 物差し等で測ることができない
変数(特性)	顕在変数 (manifest variable)	潜在変数 (latent variable)
	↓	↓ ←量的，質的
観測変数	顕在変数そのもの	指示変数 (indicator variable) 測定変数 (measurement variable)